

# 地域を知ろう(1)

## ～信仰を生きる庚申さま由来記～

高円寺は駅北口に  
ねじめ正一氏で一躍  
脚光を浴びている高  
円寺純情商店街につ  
づく、早稲田通りに  
通じる庚申通りの中  
頃に“庚申さま”が  
鎮座祀られている。

この庚申さまは同  
地の旧家伊藤八五郎  
氏の邸宅内にあった  
が、道路の変遷など  
から、庚申通りの一  
角となったもので、  
庚申さまの所在地は  
正確には高円寺北二  
|三八|一三号道路  
角地に祀られ、その  
建立の由来は正徳六  
年“暴れん坊將軍”  
の人氣番組八代將軍  
吉宗の時代、高円寺  
村講中十人の人たち  
によって“奉待庚申  
二世安樂のため”建  
立されたと伝えられ  
ている。建立当時は  
現在の場所に真南に  
向いて安置されてい  
たが、大正十二年九  
月一日の関東大震災  
で横転し、その前年  
高円寺駅の開業で庚  
申さまに面した西側  
の道路が商店街とな  
るので現在の西向き  
に建て直された。

第二次世界大戦ま  
では、伊藤家の屋敷  
内にあったが、戦後  
周囲の住宅地化で現  
在に至っている。昭  
和二十年五月二十五  
日の東京大空襲で火  
をかぶり御姿の腹部  
が破損するも御顔は  
元のままだったの  
で、こわれた部分だ  
け補修されたが、半  
身像のままの安置は  
耐え難しと、伊藤氏  
により、昭和三十七  
年御堂、三猿、道具  
類とともに現在の御  
姿に修復されたもの  
である。

なお、庚申さまの  
信仰については、徳  
川時代に盛んとな  
り、ご本尊を青面金  
剛像として、不見  
(見ざる)、不聞(き  
かざる)、不言(いわ  
ざる)の三猿を配  
し、庚申の夜には身  
体のさんしの虫が睡  
眠中に脱け出して天  
に登り、その人の罪  
科を天帝に告げ、そ  
れにより生命が奪わ  
れるといわれ、その  
夜は講中の人々が寝  
ずに経文を唱えて一  
夜を過ごしたと伝え  
られる。

大正のはじめ頃の  
高円寺は一面の畑で  
三十八戸の農家が散  
在、まだ石仏だけの  
庚申さまの周りを子  
供の伊東さん

が掃除しているとい  
つも新しい茶び杓、  
絵馬があがっていて  
絶えることがなく、  
祈願成就の靈驗あら  
たかといわれている。  
今もなお、正  
月、五月、九月には  
長仙寺のご住職を招  
いて庚申まつりを執  
行、同地域の町会は  
庚申文化会、また老  
人クラブは庚申天寿  
会と庚申さまの名を  
冠して香華の絶えな  
い信仰を集めて栄え  
ている。

庚申天寿会会長

安江 芳郎

